

平成29年度 第2回宇都宮市総合計画審議会（全体会） 会議記録

■ 日 時 平成29年 6月 1日（木）午後1時15分～午後3時20分

■ 場 所 宇都宮市役所14大会議室

■ 出席者

1 委 員

生垣委員，飯島委員，生垣委員，石井委員，馬上委員，小高委員，片山委員，
金枝委員，蟹江委員，郷間委員，小平委員，小林委員，小松崎委員，清水委員，
関野委員，田村委員，綱河委員，中島委員，中野委員，福田委員，藤原委員，
船津委員，細谷委員，三尾谷委員，水越委員，三宅委員，山島委員，横尾委員，
横松委員，渡辺委員

（五十音順）

2 事務局

総合政策部長，政策審議室長，政策審議室総合計画担当主幹，政策審議室長補佐，
政策審議室係長，政策審議室担当者

■ 会議経過

1 開会

2 報告事項

会 長

- ・ 議事に先立ちまして，2点ほど報告事項があるということなので，事務局より説明をお願いいたします。

事務局

- ・ 事務局から資料を一括説明
（1）第1回審議会の会議記録について
（2）委員の変更について

3 議事

- （1）人口の見通し（暫定版）について

会 長

- ・ それでは，議事に移りたいと思います。まず（1）人口の見通しについて，事務局から説明をお願いします。

事務局

- ・ 事務局から資料を説明

会 長

- ・ どうもありがとうございました。人口推計は全体の基準になるところでございますが、今の説明・内容について質問あるいは御意見があれば、挙手をお願いします。

委 員

- ・ 11月を目指す推計値の確定というのはいったいどういうことにより確定がなされるのですか。どういったことをするのが確定なのですか。

事務局

- ・ 確定というか、その時点における見極めというか、その先も動き続けると思うんですけれども、推計の傾きなどの仮定値に今後実施予定のアンケート結果等を反映していくという意味でございます。

委 員

- ・ それは趨勢型と将来展望型の2つともですか。

事務局

- ・ はい、そういうことです。

委 員

- ・ この予測の中には、外部ファクター、今後出てくるような事実で、はじき出してないものがあります。例えばLRTです。あるいはいろいろなところで人口減少対策の努力をされていると思います。そういった効果なども出てくると思うが、その辺のところ、この予測の中にどのように反映されているのか、反映されていないのかということ伺いたいと思います。

事務局

- ・ 現時点で社会動態、個別の張り付きなどは加味してございません。委員のおっしゃるとおりLRTが入って、西・東に延びていった時に、そこに集中した人口になるなど、将来展望よりも、数字がよくなることは十分に想定されますが、現況における仮定値で推計したところでございます。

会 長

- ・ この推計の展望型は、東京圏から移ってくるというのは宇都宮の魅力が高まってい

るのを前提にしているわけで、魅力が高まって東京圏からの出入りが一緒になればこういう風になっていきますよ、というところまでは見込んでいるという解釈でよいのですよね。

事務局

- ・ はい、おっしゃるとおりでございます。予測の積上げはないですが、そういった魅力を高めることで均衡を図るということです。

会 長

- ・ 今後また推計が出てくるということなので、そのときにまた議論したいと思います。

(2) 第6次総合計画基本構想（概案）について

会 長

- ・ 次が議題の2，第6次総合計画基本構想（概案）について説明をお願いします。

事務局

- ・ 事務局から資料を説明

会 長

- ・ 作業をしていくうえで、わかりづらいところとか、意見じゃなくて御質問があれば言っていただければと思いますが、いかがでしょうか。

委 員

- ・ 2つ質問があるのですが、1つは資料5の中に主に答えを探していたのですが、なかなか見つからなかったので事務局に教えていただきたい。

昨日、たまたまラジオを聞いていまして、国が待機児童解消の目標が3年後に変更したということで、2020年には待機児童をゼロにするということになったのは、皆さん御存知の方もいると思います。総合計画を考えるときに、子供を預かって貰えれば、当然、預けたいお母さんたちはその目標の先に目的としては働きたい。子供が預けられないと仕事が見つからない。またその逆もあるのですが、そういうことになると、今までの1次から5次までの発展を遂げてきた宇都宮の中で、男性の労働力が、基本的に生産年齢人口のほとんどを占めていた部分があると思います。今後、縮退社会の中でお母さんたちが社会でどんどん働ける環境をつくっていけば、生産人口の新たな社会的資本であったり、エネルギーであったりというところが位置づけられ、いままでにないパワー・力が都市の魅力としても発揮されるところで、働ける女性が基本的に宇都宮にお住まいになるということは非常に好条件であるという政策が必要なのだろうなという風につながってくる。ただ、女性に関わる政策を見ますと、やはり

子育てとかが多く、少子化に関わるような問題で結婚問題のテーマとか、働く女性の環境づくりとか、そうすると働きだすと家庭がお留守になってしまう。昭和の時代から平成にかけて、お母さんたちによって家庭を支えてくれた部分が、そこをカバーする環境とかは充実していると私は思うのですが、女性の働く環境が今後の宇都宮市の魅力であり、かなり大きな社会基盤になると思うが、これがどのあたりに位置づけられるのか。生産人口減少下の都市の活動維持なのか、人口構造の変化に対応した安心できる地域づくりなのか、見つからなかったもので、教えていただきたいと思います。

探している間に、これは仮置きなので、確認として質問させていただきたいのですが、後半の説明で資料7の真ん中に、宇都宮のマークが星に変わり、きらきら輝くイメージになっていると思いますが、将来の宇都宮像、都市像としての仮置きということで「みんながつながり 輝き続ける うつのみや」というものを、6次の中に打ち出していけたらいいという風な目標が見えてきたので仮置きになっていると思いますが、その後に御説明いただいた1次から5次までのテーマの中で、5次の都市像は「くらしいきき まちきらきら つながる人 夢のみや うつのみや」ということだったんですが、実はこれと仮置きした今回のテーマに、2つ、つながっている共通点がある。「まちきらきら」というのは輝くという強調性につながっています。5次から引き継いだ目標の中に言葉として載せていると思います。一番強調されているのは、5次にあたる「つながるひと」これをあえて仮置きの中に大きく残しているというのがハッキリと見えているのですが、5次の中にあった「くらしいきき」や「つながる夢」の2つがあえてこの中から消えるというか、転換されるイメージで、これからは人と人がつながって力を発揮する時代なので、「つながる」というキーワードはとてもいいと思うのだが、抜けた部分については既に達成されているから6次ではあえて触れないという方向の考え方なのか、「ゆめ」と「いきいき」について事務局のほうで、何か仮置きのうえで経過の議論があればお聞かせいただきたい。

会 長

- ・ 最初の点は、要するに女性がどう働くのかということはお答えいただいて、仮置きの都市像については、今日皆さんで、どういう言葉がいいのかという議論は後でやりたいと思っており、いろいろな御意見があると思いますので、今の段階で事務局がこうだと言ってしまうのはまずいため、それは後でということでもよろしいでしょうか。

委 員

- ・ はい、結構でございます。

会 長

- ・ それでは、事務局より回答をお願いします。

事務局

- ・ 女性の活躍の部分については、委員がおっしゃるとおり、女性の活躍推進というのを、国が推奨しているということから、この資料5の左側の本市への影響のところに女性の活躍推進に向けた取組の拡大などといったことを、時代の潮流としてひとつ押さえる必要があるかもしれませんので、入れていく方向で検討させていただきたい。

もう一つ、丸の一つ目、人口の自然減や少子化への対応というところに少しイメージを持っているところでございますが、もう少し言葉が女性の活躍というものをクローズアップするというのであれば、重要な課題として検討していきたいと思います。

また、就労ということに関していえば、資料7にございますとおり、仮に女性が生み育てる環境の部分と働く部分がもし分かれたとしても、好循環の中でそこは整理していきたいと考えておりますので、そこは、基本計画の施策を構築する中で、また引き続き検討して参りたいと考えております。

会長

- ・ 他に御質問はございますか。よろしければ、具体的な中身について、少しテーマを絞って、議論していきたいと思います。
- ・ 今のお話にありました仮置きイメージですが、この場では全体のイメージを作って、各分科会で再度議論できればと考えております。「みんながつながり 輝き続ける うつのみや」という形ができあがっている。今の御意見では、夢とかそういうのはなくなっちゃっているという意見もあったが、いかがでしょうか。

中身は全く変えずに、僕の好みでいうと「みんなつながり 輝き続く うつのみや」の方が、語呂合わせはそのほうがいい。中身は全く変わりませんが8・8・5よりは7・7・5のほうが良い、という余談ですけれども、これが総合計画全体のイメージにつながることで結構重要なテーマとなります。

委員

- ・ 考えるプロセスとして、やはりこの部分は計画のキャッチコピーになるものなので、構想のイメージが整理できないと、発散してしまうのではないのでしょうか。

会長

- ・ そうですね。結果的には、今日いろいろ議論していただいて、最終的には一番最後にみんなで決めるということで、今日は全体会ですから、イメージでも伺えればと思います。

委員

- ・ まだ、具体的なイメージが出来ていないが、他都市における総合計画の策定事例を見させていただくと、天草市では「日本の宝島」というような、独特の言葉が入っているので、そういう言葉が入ると、宇都宮らしさが出たものができるのではないかと

思います。

会 長

- ・ 例えば「杜の都」といえばすぐ仙台とわかります。「国際平和文化都市」というと広島です。こういう言葉が出てくるといいのですけれども。

委 員

- ・ この部分は、たとえば企業のキャッチコピーとかのように、人の記憶に残る必要性がすごくある言葉だと思います。英語を使えという意味ではないが、例えば「It's a SONY」のように、誰が聞いてもどの世代でもおそらく聞いたことがある言葉だと思います。これは理想形だが、52万人の市民が、宇都宮市ってこういうまちですというときにこのキャッチコピーが出てくるものを目指して作らなければいけないと思います。

正直、私は平成23年に宇都宮に久しぶりに帰ってきたのだが、第5次のキャッチコピーは今まで知らずに育ってきている。それでは意味がないというのが正直なところだと思います。

会 長

- ・ 要するに、いろいろなところで宇都宮のイメージ、キャッチコピーが出てくるようなものもいいですね。

委 員

- ・ 今回、強く出ている言葉として「未来」という言葉がいろいろなところに出てきていて、個人的にも未来というのは、どの世代の人にとっても、未来を考えるというのはワクワクすることもあり、言葉が持っている魅力だと思うので、もっと「未来」という言葉を出してもいいのかなと思います。

委 員

- ・ 私は、引っ越してきて2年しか経っていないのですが、いいフレーズだなと思ってるのは「住めば 愉快だ 宇都宮」というフレーズで、市民が割りと目にしているようなキャッチフレーズに寄せていくような工夫（音感など）も必要かなと思っています。実際、私は全く宇都宮のことを知らなかったが、やっぱり住んだら何て良いんだという実感もしたところなので、住むという言葉がいいかどうかはさておき、普段あちこちまちの中で目に触れるあのフレーズに近づくのもいいかなと思います。

会 長

- ・ 今日いくつか意見が出たということで、今後、最終的に決めていくということでしょうか。今日はあと2点ほどこの場で議論したいと思うのですが、一つは

資料6のまちづくりの目標とまちづくりの基本構想。これは各部会で議論する基本になるものなので、これについて議論していきたいと思います。

委員

- ・ 全体の基本構想の検討プロセスについて、改善提案をしたいと思います。ギャップ分析とか、イメージーション思考というのがあると思いますが、そういうアプローチが欠けているという感じがします。つまり現状を評価して、ありたい姿を明確にして、ギャップを明確にして、計画を立てるというプロセスを踏まれていないという感じがする。資料6を見ると、ありたい姿があってそして、結論が出てしまっている。現状の認識に対してそれはどういう状況で、どれぐらいのどういうギャップが存在しているかという分析がないのでちょっとこれではまずいなという感じがしています。

資料5に課題導出の切り口があり、重点課題の前段となっているが、例えば、1つ目のまるの「人口の自然減や少子化への対応」の中に「人口減少の進行による生産年齢人口の不足」がありますが、これで課題を引っ張ってしまうと、じゃあ生産年齢人口を増やせばいいじゃないかという課題になってしまう。そうではなくて、宇都宮の2050年にありたい産業構造はどういうものなのかというのを決めて、そのためには、どこの部分を手厚くしたらいいかという風に出していかないと、なかなか現実的ではないと思います。

ギャップを明確にしていくこと。ありたい姿に対してどういうギャップがあって、それを明確に改善するためにはこうなんだという思考過程にする必要があるのではないかなと感じました。資料6ではギャップの部分が見えない。

会長

- ・ 貴重な御意見ありがとうございます。事務局のほうから回答をお願いします。

事務局

- ・ 実は庁内でも、避けたい姿とありたい姿について一度議論をさせていただいておりましたが、私どもの資料にも問題があったかもしれませんが、恣意的にも見えるとの意見も出たところでもあります。資料5の中でマイナスの部分というものを左側の下段に落とし込んでいます。ここから読み取れることとして、最悪の姿というのはいくつか描くことができます。プラスを伸ばしていくという考えであれば、ありたい姿が描き出せますので、その避けたい姿とありたい姿のギャップを埋めるという課題の導出というやり方も検討させていただきました。御指摘のとおり、この資料にそこが明確になっていないこともございますので、まちづくりの課題の導出のプロセスとして、この後の計画書づくりの中で、できるだけ明記する方向で検討して参りたいと思います。

会長

- ・ 実際、分科会で議論するときはそれぞれの施策もでてくるということなので、具体

的な中身は少し詳しく出てくるかなと思います。その段階でも議論していただきたい
と思います。

委員

- ・ SWOTが6つありきという感じがしている。こういうのを考えてあの6つにしま
したというだけで、ほかの選択肢とか、なぜ7つじゃダメなのか、なぜ5つじゃダメ
なのか。資料5を見ると、6つの中で下から2番目だけ星が2つ入っていて、無理や
りくっつけた感がある。やはり、環境の話は産業よりも都市基盤のほうじゃないかと
いう感じもしてしまう。なんでこの6つなのか、その他の選択肢があるとすれば、
どういうものなのか。

未来都市というキーワードが出ていると思うが、先ほどの意見と違ってはしまうが、
いつまでも未来都市・未来都市・未来都市と言いつけなきゃいけないのは、格好悪く
はないのか。今は宇都宮未来都市っていうとなんか良い感じがするが、少し心配があ
る。未来都市を出したい心やそこに込めた想いがあれば聞かせてもらいたい。

事務局

- ・ 最初は都市像を、「みんなが輝き続ける“未来都市” うつのみや」としていたが、
2050年に叶った状態として示す言葉のため、2050年の状態としては「未来」
という言葉は使わないほうがいいだろうということになったところでもあります。通常
今までの総合計画の基本構想は15年でやりましたが、2050年は32年も先とな
り、かなり将来の都市ということで未来都市。また昨年、宇都宮の交通のまちづくり
のイメージとして、交通未来都市という言葉を各方面で使わせていただいております
ので、そういったことも「未来都市」という言葉を採用させていただいた理由であり
ます。

御質問のなぜこの6つなのかというところですが、資料5の課題導出の切り口とし
て捉えたときに、本当は環境の問題とか世界の時代潮流の中にいろいろあるが、まず
は人口減少が与える影響を考えたところ、この6つ、まず自然減とか少子化に対応し
ないといけないとか、超高齢社会にどう対応するかという、人口減少の切り口を想像
したときにこの6つが出てきたということで、6つの入口からの6つの目標という整
理をさせていただいた。

副会長

- ・ 都市のあり方ということを表現するときに、ありがちな表現として「先進都市」「未
来都市」など、先取りした姿勢でやっていきましょうというときにはそういった言い
方をしていることが結構ある。特に先進都市はいろいろなところで使われているが、
案外、未来都市というのがわかりやすい。先進都市というと若干おこがましいような
感じもあるが、控えめに言うと「未来都市」。そういった意味で、雰囲気の話になっ
てはしまうが、市のほうで交通未来都市と使い始めた時にはハマったなという風に感

じた。控えめな感じや将来の子供たちとつながっていくなどのイメージを持ったので非常に良いなと思いました。

会 長

- ・ まちづくりの重点課題については、各部会に分かれても御議論いただき、最終的に6つがいいのか、7つだと形に合わなくなっちゃうとか、いろいろなことを含めて議論していければと思います。今、御意見いただいたように交通未来都市はわかりやすいが、あとの未来都市はちょっとわかりづらい。要するにずっと未来なのかと。2050年の未来都市へ向けて現在頑張っているということかと思いますが。2030年目標だとちょっと未来都市は違うかもしれない。これもまた全体のイメージやいろいろな点に関係してくるので議論していきたいところです。

委 員

- ・ 基本構想は15年を目標にということで今まで策定をしてきたところです。今回については2050年ということで30年後。そういうことで未来都市という言葉が出てきたのだろうと逆に推測をして聞いていたところですが、そのようにして30年後を目標にした根拠は先にあったのですか。

人口問題についても、将来的には、趨勢型でいくと45万人ぐらいには落ちてしまう。将来の希望としては、将来展望型として2.0の合計出生率なのであろうが、まず達成はないだろうと思いつつも、それを15年の方はその数字を使えば、51万ぐらいまで維持できますよと。非常に有り難い。宇都宮にとっては50万があと30年続くということであれば疲弊都市とならないという推測のもとに今回の未来が強く出ているのかなと想像をしていたところですが、なぜ30年後ぐらいまでの基本構想を今回、将来に向かって描こうとしたのか、その辺をもう一度確認させていただきたい。

事務局

- ・ 第6次総合計画策定前に2つの大きな計画を作っておりまして、それが、「人口ビジョン」であり、2050年を目途としたビジョンをまず作ったということと、その前に第5次総合計画で打ち出したネットワーク型コンパクトシティの具現化を図るためのビジョンということで、「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」というものを作りました。都市の構造を変えていくには相当なスパンがかかるということで、人口構造に大きな変化がある2050年を置いたということでございます。今の御質問で、資料8の7ページをご覧ください。日本の人口のキーとなる団塊の世代、第2次ベビーブーム世代に着目しているのですが、包括ケアシステムが2025年まで、というのは団塊の世代が全部75歳にということから、2025年を捉えておりますが、2050年になりますと完全な逆ピラミッドになり、第2次ベビーブーム世代の方が75歳ということになりますので、ハード部分である人口の構造のところから、2050年というところを大きな目標とする課題として捉えて基本構想の策定

にあたって大綱を作ったときに議論をさせていただいたということでございます。

委員

- ・ 宇都宮らしさというか、どこの自治体も総合計画というと、たぶん同じような傾向だと思うが、どこのものかわからないというところがある。くくりとしては、たぶん6つなのだろうが、その中でメリハリをつけるというか打ち出すところがないと、特色が出ない気がする。これが将来の都市像にも影響すると思いますので、この中で6つありますが、交通未来都市というのは他ではないことすし、50万の人口を維持することに向けて、宇都宮に住む人を増やしていくまちづくりを考えると、こういうことをやらないとなかなか難しいという気がしています。交通だけではないとは思いますが、働く場所の確保も極めて大変ではないのかという気がします。現に東京圏に流出している人を戻さないといけない。特に女性の働く場所がないというのが結構あるようで、女性の方が東京に出てしまう。男性は、製造業も多いので、県内にいていただけるが、女性がいなくて結婚もなかなかできない。宇都宮では第3次産業の割合も増えてきていますが、まちづくりと合わせて、第3次産業を活性化しながら、女性も宇都宮でも働きやすい・働けるとい環境をまずつくるといことでは、下の4番5番の産業環境とか交通の未来都市あたりが宇都宮らしさといことでは印象的といか、考え方を持ったほうが良く、そうならないとなかなか難しいが、メリハリをつけることを意識しながら考えたほうが良いと思います。

会長

- ・ キャッチフレーズを見て、宇都宮とわかるようなフレーズがあるといいですね。

委員

- ・ 2050年の目指すべき状態の最初ですが、市民の結婚や妊娠・出産、子育てに対する希望が叶えられとい姿になっていますが、今の世代の方が希望していることが30年後に叶うといのではおかしな話で、その頃に、妊娠・出産、子育てをしたいとか、希望を持てる環境にすることが大事だと思いました。また、何回も女性が働く環境の話が出ていますけれども、2050年に第一線で働いて活躍している方といのは、今の10代・20代で、そこの方の認識っていのは今の第一線にいる方と全然違うと思。そういう意味では政策を考えるにあたって、目標を考えるにあたって今このメンバーでの意見ではなくて、そのころに活躍している方がどうい風になっているのかとい違いなどを、わたしたちが認識を共有しないといけないなと考えました。

会長

- ・ 時代が2050年になるとものすごく変わっていると思。時代潮流と書いてありますが、あと30年この時代潮流が続くかといと、たぶん全然違っている。ただ、

今の段階で考えないとできないので、それを前提として計画を作っているということで、ある程度やむを得ないところはありますが、時代は変わっていきますので現時点で考えられるという形で、できるだけ将来を展望しながら進めていく必要があると思います。

委員

- ・ 今の御発言に関してなんですけど、将来的に相当環境が変わるのは当然の話として、1年後5年後10年後、何があるか分からない中で、少なくともこういう案を出している以上、将来的に中心となる若年層の世代に対しては、こういう考えで進めているんですよというのを、その世代ごとにわかりやすく説明をしていく責任は私たちの世代にあるのではないのでしょうか。そのベースに時代の感覚ごとによって、考え方を入れていただくことで、将来が見えていくのかなと思うところもあるので、その点は是非踏まえたうえで進めていただきたい。実際、お子さんたちにはどういう風に伝えられるかということを私はわからないので、もし伝えている機会があるのであればそれは継続していただきたい。お子さんの社会科見学とか、将来的にこういうことを考えたら見学につながるというのを年代別に伝える必要があるのかなと思います。

それと離れる内容ですけれども、宇都宮市のことを考えているのですから、当然宇都宮市のもので良いのですけれども、いろいろな意味で栃木県の中の宇都宮市に一極集中というのも変な話で、近隣の市町村との兼ね合いとして、例えば商圈の問題とかは、どういう風に捉えているのでしょうか。

事務局

- ・ 御質問の広域についてであります。策定大綱といたしまして、第6次総合計画を作るにあたっての方針で、広域連携の重要性を重要な課題として捉えています。将来の宇都宮像の実現に向けてというパーツが基本構想にあります。そういったところに、どういった風に周辺の自治体と提携して取り組んでいくかという項目も記載をして、周りの自治体とどう連携をして取り組むというものを示していきたいと考えています。

委員

- ・ 今の話にもつながるが、人を集めるということは勝ち組と負け組が都市間で出てしまう。世界的に見ると、日本とヨーロッパというのは人口減で、少子高齢化で困っているが、世界の国々を見ると人口増で困っている。この話をアフリカとか東南アジアからするとおかしなことをやっているなということになる。もし人口増が成り立たなくてもいいような、イノベーションで、支える側が少なくなっても大丈夫なようにするというようなものをやれば、負け組勝ち組ではない生き残りがあるんじゃないかと思っています。

委員

- ・ 2050年という壮大な未来の話をするときに、当然我々、不十分な中での予測ですし、とはいってもなにか根拠があって話は進んでいくわけですが、現在宇都宮市の中にも中学高校とかいろいろなところで、未来の宇都宮を語る機会があるはず。そういうところに中学生版なのか高校生版なのか意見が出て、それに対して我々は歩み寄るのか、それはそれとしてイベント的なものとして扱うのか分からないが、総合計画のPR広報ということも踏まえつつ、そういった場を生かせるといいなと思います。

会長

- ・ 大学生を集めてやっても、内容が広がってしまい、なかなか意見が出てこない場合がある。逆に中学生や高校生のほうが、自由にいろいろな意見が吸い上げられるかもしれない。

委員

- ・ その意見が正式な計画に反映されなくても、その過程自体を市民に伝えるのも良いのではないか。

委員

- ・ 2025年の問題ということが言われていて、3,500万人とか3,700万人とか言われている高齢者の問題がまずあって、まさに10年以内にそういう危機のような状況乗り越えて、社会保障の問題とか、国のあり方の問題だと思うんですけども、北朝鮮や世界の情勢が不安定な中、どういう風に宇都宮をさらに発展させていくのかというのはまさに難しい問題だと思うし、将来展望型というのは希望的観測であって、さすがに出生率2.0というのは、なかなか難しいというのは皆さんもお気づきだと思います。また、2050年といえば、おそらくは自動運転技術とかが当然出てきていて、車や船や鉄道もおそらくは自動運転でしょうし、今、ドバイでは空飛ぶ車の実験もいよいよ始めると言っているし、ドローンに人を乗せて、それがタクシーになるかといった実験も近年中に始まるということでもありますから、どういう風になっているのだろうという思いはします。ただその中で、今外に出て行って、宇都宮市はどんなまちですかと言われた場合に、確かに中枢連携都市に十分なれる北関東では一番大きなまちだが、一言で表せば、餃子だったり自転車だったりジャズだったりカクテルだったりということになると思いますが、2050年に向けて、やはり宇都宮がしっかりと我々の夢を乗せてどういう風に宇都宮を表現するかと言えば、私はLRTなのではないかと思います。ストラスブールというまちもLRT賛成反対、様々あって、モビリティシフト、モビリティマネジメントをうまくやって、今でも進化し続けている。これはやはり、コミュニティシフトをうまく政策的に誘導してきたということの他ならないと思うので、LRTとか、モビリティのこととかをもう少し強く意識して、今回の総合計画は立てていくべきだと思います。

委員

- ・ 私も宇都宮に対して、夢、やさしさ、希望、明るさ、住みよさなども、もちろん欲しいのですが、子どもの教育をもっと打ち出してほしい。今のまま行ったら、今だってビリのほうなので、なんとかしなかったら困るのではないのでしょうか。そのことをどこかでがんばって欲しいと思います。

会長

- ・ 教育の問題については、分科会でも詳しく御議論いただければと思います。

委員

- ・ 一番宇都宮で印象に残っているのは、「住めば 愉快だ 宇都宮」という言葉で、毎日駅で見えています。住んでいると意外といいところだという意味だと思いますが、人が生活する中で一番、豊かだなというか、ハッピーだなと思うのは、選択肢がある、自分で道の管理できるということだと思います。大学に行くか行かないか、企業に勤めるか勤めないかもなども含めて、選択肢がある、選択することが許されている、そういう生き方が市民からしてみれば一番幸せじゃないかなと思います。選択肢を用意するようなベースの部分がある程度、市のほうで準備してあげたり、そういうものが準備できるような土壌があるというのは、市民の方々としては、力強いし、安心して住むことができるのではないかなと思っています。なので、例えば、大学進学者のうち、約77.9%が県外に進学するというのは、市内の人からすれば、もっと市内にいて欲しいと思うところだが、考え方によるとこれはものすごく幸せなこと。つまり8割が県外の大学に出すだけ、親が経済的に力を持っているということ。なので、マイナスでの影響ということを出してはいただいているが、それだけのプラスでもあるということで、宇都宮はとて、別な見方をすれば幸せなまちなのではないかなと思います。ベースの部分で安心安全を担保できるような力強さを出していただければありがたいなと思います。

委員

- ・ 第3次総合計画の時から策定に携わっていますが、なんで今回2050年なのか。10年ひと昔と言っていたのが、それが今では5年でもひと昔のような状況なのに、なんでここが2050年なのか。人口減少とか高齢化は誰が見たって絶対そういう方向で、これを中心に据えて、私は50年後のまちづくりをつくるべきではないのではないかと思います。当然人口は減る。それでも活気あるまちにしていくという考え方に変えていかないと、人口減少、高齢化社会になってもイノベーションが進んでいる。人口がそんなに減らないかもしれない。生産年齢は少なくなるかもしれないけれど、50年後というなら、そういう社会、そういう宇都宮を目指すという総合計画にしてもらえるとうれしいと思います。

委員

- ・ 今の話ともつながってくると思いますが、高齢者が増えてくるということで、定年退職を迎えて、まだ働いて現役で活躍したいという人たちの生きがいとして、高齢者の活躍の場を宇都宮としてはどう考えているのかをお聞かせいただきたい。

委員

- ・ この状況を分析される時、SWOTアナリシスを使われたかと思いますが。こういう分析をされたときには、市の皆さん方が御指摘されたと思います。宇都宮には、宇都宮にいた人は知らない強みがあるのです。また年齢によって見える宇都宮の強みや弱みがある。それ以上に大きいものについては、我々がコントロールできない社会の状況などの変化によって変わってくるもののため、強みの部分を、もう少し幅広く聞いて作ってはいかがかだと思います。先ほど、何で2050年なのかというお話がでしたが、こういったことに対して、中間ゴールの設定はされないのでしょうか。例えば、2030年には、こういうこととか、いきなり2050年に届くわけではないので、30年や40年といったゴールは設けないのでしょうか。

事務局

- ・ 基本構想については2050年ということで、30年以上先の設定となっておりますが、基本計画はあくまでも、5年または10年というスパンの中でその基本計画の周期がまさに中間ゴールという形になります。その目標に向けた各施策事業を、今後の分科会等での議論も含めて検討していきたいと考えております。

委員

- ・ 一般的にどこの市町であっても、同じような作りになってくると思いますが、宇都宮ってどういうまち、どういう市、どういうところ、ということがイメージできるようなものを作って、それが栃木県の人や宇都宮市の人には奥ゆかしいということもあって、自信を持って宇都宮って言えないところもあるのかもしれないが、先ほど話にも出た、杜の都仙台のように、宇都宮を誇れるブランディングというところも兼ね備えて、基本構想などを作っていかないといけない。餃子のまちだけではちょっと寂しい。宇都宮出身者が東京に行って、宇都宮ってこんなところなんですと、自信を持って言えるようなまちづくりを兼ね備えていきたい。

委員

- ・ 3つの課題については一般的にどこの市町であっても同じような作りになると思うが、そこをどうケアしていくのが重要。また、宇都宮ってどういうまちということがイメージできるようなものを作って、宇都宮の人はなかなか奥ゆかしいということもあって、自信を持って宇都宮と言えないところがあるのかもしれないが、先ほど出

た杜の都仙台のような宇都宮のブランディングということも兼ね備えてこれから基本構想を作っていくしないと、餃子のまちくらいしか出てこないというのはちょっと寂しい。宇都宮出身です、宇都宮ってこんなところだと自信を持って言えるようなそういうまちづくりを進めていきたい。

委員

- ・ 前回第5次総合計画の時も参加させてもらっているが、その時は都市基盤分野については割りときちんと堅実なところでまとまっていた感想を持っている。今回未来都市というフレーズがあるので、ある程度大胆な意見が言えるのかなと思います。星のマークがインパクト的にちょっと地味な印象がある。もうちょっとインパクトがあるものに変えられるのであれば、議論していきたい。

委員

- ・ 総合計画というのは計画期間10年というのが多いが、今回2050年ということで30年と長い計画となる中で、長いと感じている。2050年時点で宇都宮市において中核になっている子どもたちの意見、こういった宇都宮にしていきたいという意見を、今まで実施してきたか、また市民に対する世論調査をどれくらい計画策定に活用しているのか確認したい。もう一点、冒頭、宇都宮市の人口推計の報告があったが、人口が多いから良い、少ないから悪いというわけではない。重要なのは宇都宮市としてどのように市民のために柔軟な行政ができるのか。そういったものも総合計画に反映したほうが良いと思います。

事務局

- ・ 市政世論調査では20代の回答率が最も低いので、若い方に特化したアンケートの実施を今年度検討しているところである。また、中高生のジュニア未来議会にも第6次総合計画の情報を材料として提供して、今後、意見交換を予定している。さらに大学生によるまちづくり提案で、第6次総合計画をテーマに意見交換を行ったうえで、提案を実施していく予定であります。

委員

- ・ 高齢者は、これからも地域の色々なボランティア活動の中心で負担もかなりかかってくる。これからも地域のいろいろな役職についていただくのが高齢者になるかなと思っているので、高齢者が働きやすい環境づくりが計画に反映できたらいいと考えています。

委員

- ・ 総合計画は今、生きている人が将来の子どもたちのために今ある知見で一生懸命考えているものなので、将来的には多少の手直しなど柔軟性を持っていても良いと思います。

ます。

また、宇都宮市民にとっての旗印になるものであるから総花的なものでなく、多少ストレスをかけてメリハリをつけた方が、市民にとっても分かりやすく浸透しやすいのではないかと。資料7のまちづくりの好循環の事例でそれぞれのイメージがつくが、例えば健康・福祉未来都市を起点として、ここから発信するベクトルなどがちょっと想像できない。交通未来都市から出るのはわかるのだが、逆にその辺も強弱がついているのかなと思います。この健康とか福祉とか弱いところが際立っているいろいろな施策が盛り込まれたりすると良いと思います。

委員

- ・ 2050年に目指すべき状態というところで具体的に想定されている状態を伺いたいというのと、総合計画という大きい計画を審議する会議なので、それぞれ関連する部署の方も出席していただいても良いのではないかと思います。

ここで大きな話を議論しても、それが全ての現場でそのとおりにはないという現実があり、その辺の状態をどの辺のところまで想像されているのかなというのはあります。また、交通・都市基盤というところはこれからの宇都宮の生命線だと思います。また、体育館が足りないなど今ない都市機能を作るとかそういう方向に持っていくようにしたほうが良いと思っています、人が減ってからインフラを整備しようと思っても絶対できないので、それができるのも今のうちだと思っています。

会長

- ・ いろいろな会議があつて、いろいろな部局の人が出てきている会議もあるため、そこは、安心して議論していただければと思います。また、他のところに関連するようなどころであっても、どんどん議論していただきたい。

委員

- ・ 総合計画を検討するにあたって忘れてはならないのは、宇都宮市には自治基本条例があり、その中で総合計画を定めるとあります。宇都宮市の条例の特徴は地域の活動団体・ボランティア団体・企業の役割をきちっと定めているところであり、総合計画という役所中心で動くような形になってしまうので、それぞれの事業所であるとかボランティア団体、自治会などに直接的に分かりやすく伝えられる計画にしてもらいたい。自治基本条例では、市民というのはそこに住んでいる人・働く人・学ぶ人を広く市民としているので、そこを念頭に置いて計画を立ててもらいたい。

委員

- ・ 宇都宮の歌を皆さんご存知ですか。今小学校の運動会でラジオ体操ではなくてこの歌に合わせて体操をやっている。その中に「山青く水清し、若人の意気燃ゆる街」という歌詞がある。宇都宮には良いところがたくさんあり、こういう良さを子どもたち

も学んでいる。若い人からお年寄りまでいろいろな層の人たちの意見を集約して、ここでまとめた現状分析と合わせて反映させながら、計画ができていくと良いと思うし、みんながつながってやるということであれば、行政だけでなく我々市民がやる部分もたくさんあるのでそういった部分も盛り込んだ計画となれば良いと思います。

委員

- ・ 5年10年の積み重ねの上に2050年があるというのは良いと思います。資料を見て少し足りないかなと思っているのは、社会的な配慮が必要になってきている世帯、世代が増えていると感じているが、輝き続ける宇都宮を目指す方向は良いが、現実を目を向けた時に配慮していくことが必要な人たちがいるということは、計画の中でも段階的に網羅をしていくことが必要でないでしょうか。

副会長

- ・ 構想が2050年というのは、ざっくりと思いの丈をここで述べる形を作っていければいいのかなと思っている。先の見えない中で我々が何を描けるか、それが我々の責任なのでしっかりと書いてもらえれば良いと思います。計画については5年10年というので、今こういうものが変わっていく、というものをぶつけて実のある計画にしていく、そこが委員の役割だと思うので、さらに今後分科会で語っていただきたい。

4 その他

会長

- ・ その他に移りたいと思います。事務局より資料の説明をお願いします。

事務局

- ・ 事務局から次回の審議会日程等について説明

5 閉会

事務局

- ・ 時間となりましたので終了と致します。

以上